表紙インタビュー

淡交会結成120周年記念ベートーヴェン作曲「交響曲第九番」特別演奏会で合唱を指導する

北原 徹 さん（89回）

「歓喜の歌」みんなで歌おう!!

——淡交会が「第九」に挑むのは2001年の両国高校創立百周年記念演奏会以来24年ぶりということですが、合唱を指導される抱負をお聞かせください。

中1～80代まで声合わせ

「私は当時、淡交フィルでヴァイオリンを弾きました。今回は第九だけでなく、校歌、卒業式の歌、あゝ黎明の歌など校歌五部作も歌いますが、附属中1年生から80代の卒業生まで、両国の同窓生たちが声を合わせて歌うことに一番の意味があります」

——「第九」とはどういう曲ですか？

「ベートーヴェンが作曲した九つの交響曲の最後を飾る最高傑作で、第4楽章は独唱と合唱を伴って演奏されます。歌詞にはシラーの詩『歓喜に寄す』が用いられていて、その主題は『歓喜の歌』として親しまれています。シラーの詩は1785年の作で、ドイツではものすごく流行り、若きベートーヴェンも熱狂して、いつかこの詩に曲を付けたいと願っていたそうです。曲が出来上がったのは1824年、死の3年前でした」

——「第九」の合唱ってドイツ語で難しいのでは？

「楽譜が読めない、ドイツ語なんて分からないという方でもOKです。カタカナとドイツ語の発音記号と和訳を全小節・全パートに記載した楽譜を半年以上かけて作成しました。第九に出てくる単語だけに特化した発音解説（舌の位置、口の形など）、創世記までさかのぼった歌詞の解釈、脚韻や二重フーガの構造解析なども解説しています。これを参加者全員に無償配布します」

——誰でも参加できる？

カタカナ読めれば大丈夫

「カタカナが読めれば大丈夫です（笑）」

——練習はいつから始まるのですか？

「オフィシャルには今年10月スタートですが、すでに『第九を歌ったことがないので早く練習を始めたい』という方からのオファーもきています。参加しやすいように日曜の午後を予定しています」

——現役の中高生も一緒に練習するのですか？

「生徒たちには、私が土曜日に両国高校の教室に出向いて合唱指導する予定で、学校側と具体的な練習日時の協議を進めています」

——人数は何人ぐらいを予定していますか？

「目標は最低100人です。またとない機会ですので、卒業生の皆さん、奮ってご参加ください」

——オーケストラ（淡交フィル）は新田ユリさん（77回）が指揮されますが、どのように連携をとっていくのですか？

「淡交フィルと合唱団は別々に練習を重ね、来年7月の本番近くになってから合同で練習することにしています。新田先生とは緊密に連絡し合い、4人のソリスト選定も相談しながら進めています」

インタビューに答える北原さん

——指揮者としての活動は？

「両国高校の音楽部（現在の管弦楽部）で指揮者を担当したことが活動のスタートです。東京音楽大学の指揮専攻科でもオーケストラの指揮を勉強しました。2017年にシベリウスのフィンランディアの合唱指導をしたことをきっかけに、現在は淡交混声合唱団の指揮を任されています。合唱指導の実績が認められ、日本合唱指揮者協会へ入会しました。会員として合唱の楽しさを普及する活動に尽力しています」

——淡交混声合唱団の練習は？

「日曜日の午後、毎週ないし隔週で2時間半練習しています」

——合唱の指揮で特に心がけていることはありますか？

「音程の取り方に特に注意しています。合唱は一般的にピアノ伴奏が多いので、ピアノに音程を合わせる合唱団がほとんどです。ピアノは平均律という調律方法なので、合唱で歌うと残念ながらあまり美しい和声になりません。そのため私の練習では、他のパートの音から相対的に自分の音程を構築する純正律和声を心がけています。ドの音を聞きながらソの音を出し、このドソの和音（五度）にミの音を挟む（三度）ということをまずは行います。このミの音はピアノよりずっと低い音程になりますが、とても美しい和声になります。

常にこの方法が正解というわけではなく、旋律の中では導音を少し高めにとって和音解決をはかるなど、極端に言えば各拍ごとに音程の取り方が変わります。このような練習を積み重ねて歌った演奏録音を団員と一緒に聞いた時、歌った団員自身が『今まで経験した他の合唱団に比べて段違いに美しく感じた』と言ってくれた時はとてもうれしかったです」

——ピアノは5歳から始めたとか。

「幼稚園の時、隣家のお姉さんがピアノを弾いているのを聞いて、『僕も習いたい』と母に言い、近所のピアノ教室に通ったことはよく覚えています」

——どんなご家庭だったのですか？

合唱団を指揮する北原さん（撮影／スタッフ・テス）

「両親と6歳上の兄の4人家族です。両親・兄とも特に音楽を専門にはしておりませんが、母は外国人の方に日本語を教えていたので、日本語の発音やアクセントの話はよく聞いていました。この経験は合唱指導に生かせていると思います」

——NHK全国学校音楽コンクール全国大会に出場したことがあるとか？

コーラスで全国大会出場

「熊本の小学校4年の時、部活のコーラス部で、熊本県大会、九州大会、熊本市予選会、熊本県大会まで優勝を重ねて全国大会に出ました。藏本靖子先生というとても良い先生に合唱を指導して頂いたおかげです。先生はもう90歳近いと思うのですが、今も年賀状のやり取りをしていて、私が合唱の指揮者になったことをすごく喜んでくれました」

——ヴァイオリンはいつから？

「両国高校で音楽部に入って初めてヴァイオリンを始めました」

——楽器は今も弾くのですか？

家族でカルテット楽しむ

「高3の長男がチェロ、中3の次男と妻がヴァイオリンで、私はヴィオラを弾き、家族でカルテットを楽しんでいます」

——両国高校時代の思い出は？

「3年間音楽ばっかりやっていました。部活は音楽部と弓道部の掛け持ち。弓道は2級まで取得し、2年生になってから音楽部に専念しました」

——好きだった学科は？

「理科と数学。特に化学が好きでした。大学では高校理科の教員免許を取りました」

——印象に残る先生は？

「地理の中田正己先生、保健体育の松原美千代先生、生物の薄葉重先生が印象に残っています」

——高校卒業後は？

「化学が好きだったので東京理科大学で有機ケイ素化学を専攻しました。その後、東京音楽大学の指揮専攻科で指揮法を学びました」

——両国高校で学んでよかったですか？

両国高校楽しかった！

「楽しかったですねー。当時は楽器室のカギを生徒が持っていたので、朝7時から朝練、昼練、放課後練とヴァイオリンを弾くのが楽しくずっと弾いていました。息子二人とも中学受験をしましたが、私の思い出話に共感してくれたのか二人とも両国を希望してくれたのは嬉しかったです」

——在校生に一言お願いします。

「ぜひ第九を一緒にやりましょう！第九だけでなく両国高校五部作（校歌・卒業式の歌・あゝ黎明の歌・三中健児の歌・開校式の歌）も歌います。学生服の中高生と80代の大先輩が並んで歌う一大イベントです。ご参加お待ちしています」

（3月5日、JR亀戸駅前の江東区亀戸文化センター会議室で）（宇）

◇　◇　◇

きたはら・とおる　1974年2月、熊本県熊本市生まれ、50歳。指揮者。

熊本市立帯山小（10歳まで）、江戸川区立清新第三小、同清新第一中を経て89年4月、両国高校に入学、92年3月卒業した。

93年4月、東京理科大学理工学部入学（有機ケイ素化学専攻）、98年3月卒業。その後、東京音楽大学指揮専攻科にて三河正典氏、加納明洋氏に指揮法を師事。

5歳よりピアノ及びソルフェージュ、8歳より声楽、10歳よりユーフォニュウム、15歳よりヴァイオリンを始める。

これまでに麗澤大学フィルハーモニー管弦楽団、東京海上オーケストラTEMPO限度楽、日立ソレイユ室内合奏団、日立フィルハーモニー管弦楽団、浦和フィルハーモニー管弦楽団など大学、企業、社会人等のオーケストラや合唱団で指揮を務める。

NHK全国学校音楽コンクール全国大会出場、東京都吹奏楽コンクール銀賞受賞、日本ベートーヴェン協会主催ベートーヴェン生誕祭記念演奏会出演（ピアノ）。

現在、淡交混声合唱団指揮者、JCDA日本合唱指揮者協会会員。

（上は淡交混声合唱団ホームページのQRコードです）